

共同礼拝

2024年6月2日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 河野和雄 長谷川ゆり子

前 奏

招 詞 詩 編 100編1～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 53章7～8節 (旧1150)

使徒言行録 8章26～40節 (新228)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 8

説 教 「喜びにあふれる」牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 205

聖 餐 式

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

5月の祈り

教会が教会の頭であるキリストのもとに一つにまとめられるように。

キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、信じて、約束された聖霊で証印を押されたことを表すことができるように。

礼拝がまことに主をあがめるものとなるように。

信仰の継承がなされ、教会学校、幼稚園等教会に集う子どもたちに信仰の導きと祝福があるように。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

困難な時代に共に伝道に歩む、教団、教区、支区の諸教会の歩みが力づけられるように。

震災の被災地の人々、教会と教会員が力づけられ再建の歩みが導かれるように。

指導者たちが平和の道を求め、戦火が止み、人々に安心がもたらされるように。

「喜びにあふれる」姜 徑米

使徒言行録 8章26～40節

エチオピアの宦官が馬車の中で朗読していたのは、イザヤ書53章7、8節でした。ここには、屠殺場に引かれていき、黙って毛を刈られる羊のように、苦しめられ、裁きも行われずに殺されていく人のことが語られています。これは「主の僕の歌」あるいは「苦難の僕の歌」と言われているところです。

フィリポは宦官に語りかけ、宦官は彼を馬車に乗せ、傍らに座らせました。こうして、フィリポによる聖書の説き明かしが始まります。この箇所でフィリポがしている伝道は、聖書のみ言葉の説き明かしであります。

この「苦しみを受けて殺され、そのことによって子孫が末永く続くのを見ると約束されている人は誰なのか」それが宦官の疑問です。フィリポはこの問いに、この苦難の僕と呼ばれている人は、主イエス・キリストのことだと明確に答えます。

フィリポは「自らは何の罪もないのに、人々の罪を引き受け、捕らえられ、裁きを受け、黙って死んでいったこの苦難の僕とは、神様の独り子イエス・キリストのことに他ならない。」と言います。

そして「この人が私たちのために身代わりとなって懲らしめを受け、殺されたことによって、罪人の私たちが赦され、神様の民として迎え入れられている。彼は子孫が末永く続くのを見ると言われているのは、彼を信じる信仰によって神の民が新しく立てられ、多くの人々がそこに招かれ、迎えられ、新しい神の民、新しいイスラエルが彼のもとに誕生するということだ。そこには隔てはない。それが主イエス・キリストの十字架の死と、そして復活によって実現しているのだ。」と続けます。

さらに宦官に向けて「あなたも、この主イエスによる罪の赦し、贖いの恵みによって、喜びの祝いへと招かれており、イエス・キリストを信じる信仰を告白し、洗礼を受けることによってそれにあずかることができるのだ。」と告げます。

フィリポはこのように、イエスについての福音を告げ知らせたのです。

この聖書の説き明かしを聞いた宦官は、それまで彼が熱心に求めながら与えられなかった救いが、イエス・キリストにあることを示されました。彼が願いながらも乗り越えることができなかった隔てが、主イエスによって乗り越えられたことを知ることができました。